

令和6年度行政評価 施策評価シート （令和5年度実績）

施策名 観光産業の発展

施策コード 5010101

1. 施策の担当	
主管課	生活産業部 まちの活性課
関係課	

2. 総合計画における位置づけ			
総合計画	政策	第1章 地域の強みを生かし、賑わいを創り出すまちづくり（活力・賑わい）	第1節 観光
	施策	観光産業の発展	

基本方針	
・「泉佐野シティプロモーション推進協議会」、「泉佐野市観光協会」を中心として、目的地となるための観光振興の組織体制を構築します。 ・目的地となるための観光地経営をめざして、イノベーションを起こす人材の育成を実現するために、観光関連団体において、人材育成の動きが自立的かつ持続的に発展する環境の整備を支援します。 ・訪日外国人旅行者の滞在時の快適性及び観光地の魅力向上並びに観光地までの移動等の円滑化を図るため、多言語による案内をはじめとする受入環境整備に取り組みます。 ・「KIX泉州ツーリズムビューロー」と連携し、広域的に観光振興事業を行い、泉州地域への誘客に努めます。 ・豊富な観光資源を活用した市民団体等の主催イベントを側面的に支援します。 ・SNS等を活用して、市の魅力や観光情報をリアルタイムに市内外へ発信し、観光客の誘致に努めます。	

現況と課題	
・訪日外国人旅行者は着実に増え続けており、観光関連産業の活性化が期待されています。 ・日本版DMO「泉佐野シティプロモーション推進協議会」は、市や観光協会と連携し、本市のまちの活性化に取り組んでいます。 ・日本版DMOを中心とした組織体制の構築のため、官民連携した効果的な役割分担をしていく必要があります。 ・観光産業の活性化が期待される中、目的地となるための観光地経営を担う人材を育成していく必要があります。 ・訪日外国人旅行者のさらなる増加に向けて、訪日外国人旅行者が快適に観光を満喫できる環境を整備していく必要があります。 ・堺市以南の9市4町で設立した地域連携DMO「KIX泉州ツーリズムビューロー」で広域的に観光振興事業を行うことにより、訪日外国人旅行者の泉州地域への誘客が期待されています。 ・観光協会等と連携して、自然、歴史、文化等の豊富な観光資源をいかしたイベントの開催や支援を行うことにより、一定の集客を確保していますが、市内の歴史ある伝統文化を活用した賑わいを創出するとともに、地域コミュニティを維持・形成していく必要があります。 ・観光関連団体と連携して、市内の宿泊・観光施設との情報のネットワークを構築し、まち処や観光情報センター、インターネット、SNS等を活用したリアルタイムな観光情報の提供に努めるとともに、訪日外国人旅行者に対する情報発信として多言語による案内にも取り組んでいく必要があります。	

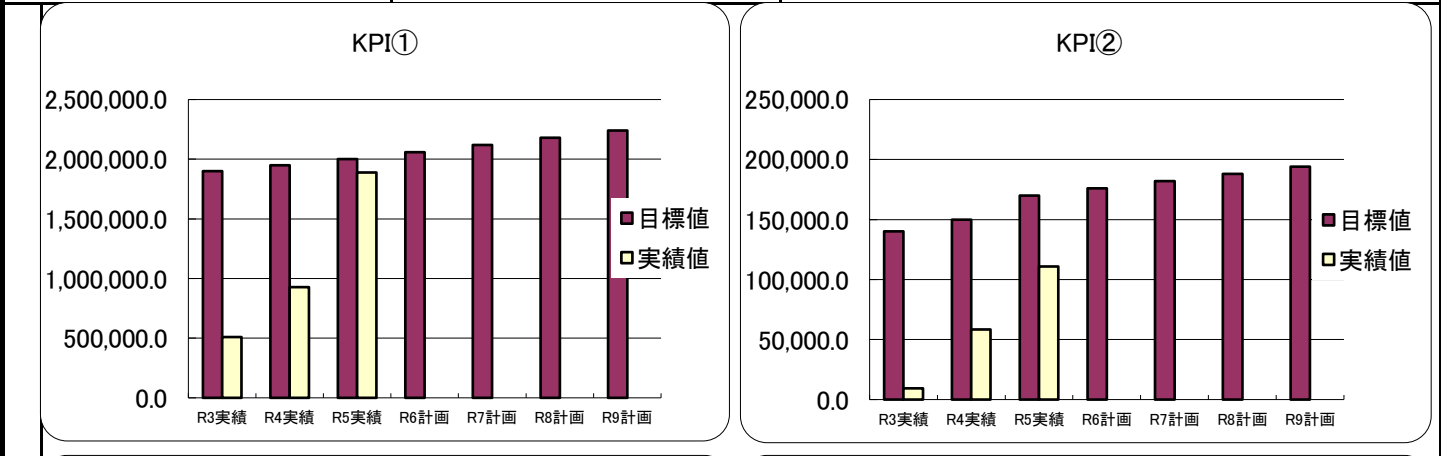
施策目標	
対象（誰を、何を、どこを）	
訪日外国人観光客、国内観光客、地域事業者	
意図（どのような状態にしたいのか）	
関西、日本各地、海外から多くの人々が訪れるよう、泉佐野の特色や魅力を活かしつつ収穫力の向上を図り、人々の交流を生み出します。	

3. 市民ニーズ							
	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11
満足度（偏差値）	46.4						
重要度（偏差値）	49.8						

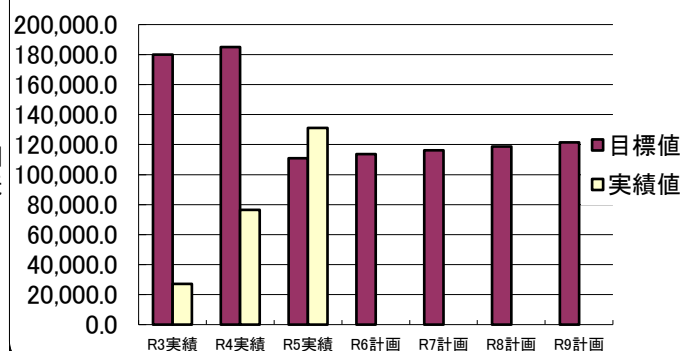
4. 施策にかかるコスト								
コストの内訳	人件費	単位	R4決算	R5決算				
	事業費	千円	30,291	31,128				
	フルコスト		211,080	176,147				
財源内訳	国庫支出金	千円	241,371	207,275				
	府支出金		40,955	48,425				
	市債		597	602				
	その他		0	0				
	一般財源1（＝フルコスト－特定財源）		148,773	109,303				
	一般財源2（＝直接事業費－特定財源）		51,046	48,945				
			20,755	17,817				

5. 施策の重要業績成果指標(KPI)							
① KPI 1		市内の年間延べ宿泊者数※暦年値					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	1,900,000.0	1,950,000.0	2,000,000.0	2,060,000.0	2,120,000.0	2,180,000.0	2,240,000.0
実績値	509,390.0	928,900.0	1,889,140.0				
達成度	26.81	47.64	94.46				
KPI設定の根拠			KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景		
宿泊者数の増加が交流、地域活性化につながることから指標を設定			平成30年度目標値160万人に対し、令和10年度に客室数が役1.4倍になると推定し、最終目標値を230万人と設定		新型コロナウイルス感染症の移動・入国制限の緩和により国内外の旅行者が増加した。		

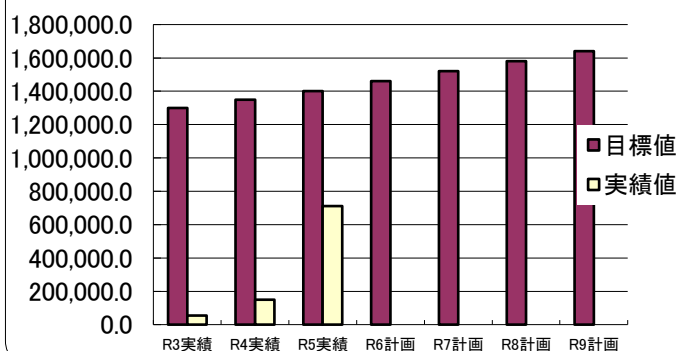
② KPI 2		イベント集客数【市内開催に限る】					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	140,000.0	150,000.0	170,000.0	176,000.0	182,000.0	188,000.0	194,000.0
実績値	9,275.0	58,538.0	110,893.0				
達成度	6.63	39.03	65.23				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
本市でのイベント集客数を把握することによって、賑わいの創出や市民団体等の観光振興に寄与した度合いを把握するため指標として設定		過去の実績と現状を考慮して10年後の目標を概ね20万人と設定		新型コロナウイルス感染症のイベントに関する制限の段階的緩和により、イベントを実施できる状況になってきたことにより集客数も増加した。			
③ KPI 3		観光交流プラザ「りんくうまち処」・観光おもてなしプラザ「泉佐野まち処」・泉佐野市観光情報センターの年					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	180,000.0	185,000.0	111,000.0	113,600.0	116,200.0	118,800.0	121,400.0
実績値	27,192.0	76,540.0	131,177.0				
達成度	15.11	41.37	118.18				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市内にある観光交流プラザ（りんくうまち処）・観光おもてなしプラザ（泉佐野まち処）・泉佐野市観光情報センターでの調査実績数		平成29年度実績96千人に対し、各施設の推定増加率を考慮し、令和10年度の最終目標値を124千人と設定		新型コロナウイルス感染症の各種制限の段階的な緩和により国内外の旅行者が増加し、観光施設を訪れる旅行者が増加した。			
④ KPI 4		市内の年間外国人延べ宿泊者数※暦年値					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	1,300,000.0	1,350,000.0	1,400,000.0	1,460,000.0	1,520,000.0	1,580,000.0	1,640,000.0
実績値	54,660.0	150,310.0	712,190.0				
達成度	4.2	11.13	50.87				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
訪日外国人宿泊者数の増加が交流や地域活性化につながることから指標を設定		平成30年度で50万人を目標に設定しましたが、平成26年以降大幅に外国人宿泊者数が増加し、目標をはるかに上回る実績となったので平成27年度以降は過去の実績を踏まえ目標値を設定		新型コロナウイルス感染症の入国制限が段階的に緩和されたことに、訪日外国人旅行者が増加した。			
⑤ KPI 5		観光交流プラザ「りんくうまち処」・観光おもてなしプラザ「泉佐野まち処」の売上額					
項目	R3実績	R4実績	R5実績	R6計画	R7計画	R8計画	R9計画
目標値	22,500,000.0	23,000,000.0	16,200,000.0	16,800,000.0	17,400,000.0	18,000,000.0	18,600,000.0
実績値	4,977,611.0	14,786,043.0	28,361,948.0				
達成度	22.12	64.29	175.07				
KPI設定の根拠		KPI目標数値の設定根拠		目標達成・未達成の理由・背景			
市内にある観光交流プラザ（りんくうまち処）・観光おもてなしプラザ（泉佐野まち処）・泉佐野市観光情報センターでの売上額		泉佐野市及び特産品協定都市の特産品の販売を通じて、様々な観光資源を？し、本市の魅力向上を目指す指標として目標値を設定		国内外の旅行者が増加し、観光施設等に訪れる方も多くなり、売り上げも増加した。			



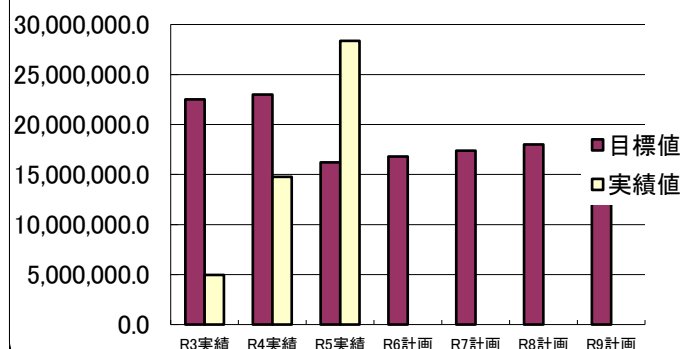
KPI③



KPI④



KPI⑤



6. 施策の事後評価

	判定項目	評価点	評価理由、今後の方向性等
一次評価 (担当課による評価)	施策の成果レベル (過去の推移、周辺市との比較なども含む)	(4点中) 4	新型コロナウイルス感染症の影響により、この数年、観光産業は非常に厳しい状況にあったが、移動・入国制限の緩和により、国内外の旅行者数が回復傾向にあり、少しずつ賑わいが戻りつつある。
	施策に対する市民ニーズ	(3点中) 2	国内外の旅行者がコロナ禍以前の水準にまで回復しつつあるので、観光施策は消費喚起にもつながることから、観光振興に対するニーズは地域の事業者等を中心により一層高まりつつある。
	施策を取り巻く状況 (法令等の動向、国・府の政策の動向、社会潮流など)	(3点中) 2	新型コロナウイルス感染症による各種制限が緩和に伴い、国内外の旅行を促すため、国も積極的に観光施策を展開している。
	合計点	(10点中) 8点	
	総合評価	B	新型コロナウイルス感染症による各種制限の緩和に伴い、国内外の旅行者数も回復傾向にある。今後はアフターを見据えた新たな施策を展開していく必要がある。
二次評価 (政策推進課・行財政管理課による評価)		B	年間宿泊者数の動向からコロナの影響を脱して、観光関連はほぼ回復してきていると判断できる。再訪意欲につなげるため、来訪者の満足度アンケートの実施など、コロナ禍前を超える魅力あふれる施策を検討すること。
三次評価 (理事者による評価) ※二次評価と異なる場合など記載		B	

7. 施策を構成する事務事業

事務事業			R5年度決算額			R6年度予算	一次評価
	予算コード	事務事業名	人件費	事業費	一般財源		
1	01037300	観光振興事業	22,966	118,177	17,817	0	B
2	01083379	関空立国デスティネーション化推進事業	8,162	57,970	0	0	B
合計			31,128	176,147	17,817	0	

令和6年度行政評価 事務事業評価シート(令和5年度実績)

事務事業コード	050201010	予算コード	01037300	従事人員(人)	投入コスト(千円)	評価	評価点	一次評価	B
事務事業名	観光振興事業			正規職員数	2	国庫支出金	19,440	有効性	B
担当課	まちの活性課			嘱託職員数	1.8	府支出金	602	効率性	C
根拠法令等	市単独事業			臨時職員数	0	市債	0	妥当性	A
				歳出(千円)		その他	80,318	受益者負担	B
	なし			人件費総額	22,966	一般財源	40,783		
						減価償却費	0		
						事業費	118,177		
事務事業類型	運営事業			フルコスト(千円)	141,143	緊急性	A	事務事業実施内容	
実施手法	一部委託			市民1人当たりコスト(円)	1,425	公的関与	B	地域への観光・消費喚起の取組みである「軽トラ市」、イヌナキン関連業務、観光情報センター運営、泉佐野まち処運営、	
対象				活動指標	R5実績	実施主体・委託化	B		
その他		対象数				他の事務事業との関連	B		
国内外の集客向上を目標とする				泉佐野市観光協会関連事業（総イベント数）	28.0	透明性	B		
事業の内容				泉州地域の訪日旅行者数	0.0	財政健全化計画	該当なし		
泉佐野市観光協会への観光振興事業の委託（大井関桜まつり、犬鳴山温泉まつり、泉佐野伝統文化体験事業、駅前イルミネーション、観光情報センター運営、多言語観光案内板整備等）。				観光おもてなしプラザ「泉佐野まち処」年間利用者数	16,716.0	財政健全化の取組	該当なし		
（一社）ICPへの泉佐野・りんくう・閑空まち処運営事業、（一社）泉州KIX ツーリズムビューロー等を活用した情報発信やおもてなし。ふるさと納税等を活用したイベント助成や市公式キャラクター活動に対する業務委託等。				成果指標	R5実績	改革改善プラン達成度	該当なし		
				観光おもてなしプラザ「泉佐野まち処」売上額	3,807,775.0				
				泉佐野市観光協会事業（集客）	110,893.0				
				泉州地域の旅行消費額（訪日旅行者）	788.0				
				コスト指標	R5実績				
事業の目的				集客総数一人当たり事業費	1,106.1				
主催・共催イベントの開催や後援イベントとの連携により、市内のみならず海外からの観光客に本市の様々な観光資源・特産品・伝統文化等地域魅力に接する機会を創出するとともに、さらには来訪者の増加及びリピーターにつなげ、市の誘客促進につなげる。									

事務事業コード	050202020	予算コード	01083379	従事人員(人)	投入コスト(千円)	評価	一次評価	B							
事務事業名	閑空立国デスティネーション化推進事業				正規職員数	1	国庫支出金	28,985	有効性	C	新型コロナウイルスの感染症による各種制限の段階的は緩和により、コロナ禍前の賑わいが戻りつつある。今後はアフターコロナを見据えた持続可能な事業を継続して展開していく。				
担当課	まちの活性課				嘱託職員数	0	府支出金	0	効率性	B					
根拠法令等					市単独事業	0	市債	0							
					歳出(千円)	28,985	その他	28,985							
					人件費総額	8,162	一般財源	8,162	妥当性	A					
							減価償却費	0	受益者負担	C					
							事業費	57,970							
事務事業類型	運営事業				フルコスト(千円)	66,132	緊急性	A	事務事業実施内容						
実施手法	全部委託				市民1人当たりコスト(円)	667			この間、新型コロナウイルス感染症の位置づけが2類から5類に変わったことから、国内外の旅行者数等も回復傾向にあり、各種事業を実施できる環境になりつつある。						
対象	活動指標				R5実績	公的関与	B								
その他	対象数														
外国人を含む観光客、地域の事業者、不特定の市民					ローカルツアー等の企画造成数	12.0	実施主体・委託化	B							
事業の内容					ナイトタイムコンテンツの企画造成数	1.0									
①デスティネーション化推進事業〔主な業務〕ナイトタイムエコノミーの推進、MICE誘致戦略の推進、ローカルツアーの造成 ②ガストロノミーツーリズム構築事業〔主な業務〕連携都市・周辺地域の特産品の販路拡大、広域観光周遊ルートの構築、ガストロノミー体験フェアの開催 ③インバウンド受入環境整備強化事業〔主な業務〕QRトランスレーターの拡充、ローカルツアー販売拠点整備・運営 ④グローバル人材育成事業〔主な業務〕グローバル人材・マーケティング人材の育成					QRトランスレーターの対応言語数	10.0	他の事務事業との関連	A							
					成果指標					R5実績	透明性	C			
					延べ宿泊者数					1,889,140.0					
					外国人延べ宿泊者数					712,190.0	財政健全化計画	該当なし			
					外国人の平均宿泊日数					1.36					
					夜市・物産フェア等の参加人数					3,574.0	財政健全化の取組	該当なし			
					コスト指標					R5実績	改革改善プラン達成度	該当なし			
					事業の目的					閑空立国デスティネーション化推進事業市民一人当たりの経費	585.1				
					閑空の対岸という地理的優位性と交通利便性の強みを活かしたエリアの魅力創出による観光客の目的地化と周辺地域への出発地あるいは中継地としての機能強化をはかり、観光ハブ都市の形成をめざす。										